



# 東北大学災害科学国際研究所

第23回東北大学災害科学研究拠点セミナー  
第36回「災害と健康」学際研究推進セミナー  
第3回ヒューマンレジリエンス重点研究領域セミナー

## 福島第一原子力発電所事故をモデルとした 放射線影響研究の紹介

～フィールドワークとベンチワークから現時点で見えてきたこと～

過去に生じた放射線被ばく事例・事故などから放射線災害時の被ばく影響について多くの学びが得られてきました。広島・長崎の原爆被爆者の寿命調査は大規模かつ現在も継続するなどきめ細かく実施された結果、現在でも放射線被ばく影響の国際的なゴールドスタンダードとされています。これまで蓄積されてきた知見よりもさらに低い線量・線量率範囲の被ばくが長期間継続する点が福島第一原子力発電所事故による被ばくの特徴であるために、従来の知見を低線量・低線量率範囲へ外挿するための科学的根拠が不足していることが現在でも課題となっています。

2011年8月から旧警戒区域へ入域して、福島第一原子力発電所事故後の低線量・低線量率長期放射線被ばくによってどのような生物影響が生じるのか、被ばく線量評価と生物影響解析を関連付ける検討を続けてきました。フィールドワークとベンチワークをつなぐ放射線被ばく影響解析は、低頻度災害である放射線災害発災時の活動モデルとなることが期待されますので、本発表では私たちのこれまでの活動内容を紹介するとともに、今回の事故による被ばくがもたらす生物影響についてこれまで得られた知見を紹介したいと思います。



東北大学災害科学国際研究所  
災害放射線医学分野 講師

**鈴木 正敏 先生**

2019年より災害放射線医学分野に在籍。今回紹介する研究活動には2012年から参画し、現在も継続中である。

2022年9月22日（木）  
16:00～17:30

WEB 開催  
(ZOOM)

本セミナーは医学系研究科系統講義コース科目の授業として振替可能です

お申し込み・お問い合わせ

東北大学災害科学国際研究所  
「災害と健康」プロジェクトユニット  
<http://www.irides-pudh.med.tohoku.ac.jp>



指定国立大  
災害科学 世界トップレベル研究拠点